

「特集 建設分野の魅力」第5回



①法華山谷川の河川改修工事 ②高砂市 ③皇谷川の復旧現場を見学する生徒ら ④加古川市八幡町 ⑤「総合治水」の取り組みを見学 ⑥加古川運動公園



初日は東播磨員局加古川土木事務所の伊藤裕文所長が「土木の魅力」を伝える。君たちが播磨を夢の持てるま

「避難時、君たちはリーダーになる」

東播磨員局では、防災意識を高める取り組みに積極的に参加。生徒たちが地域の合同防災避難訓練に

1日目

座学で心構え

また、県内外で似た大きな水害を、動画で紹介。水の中は歩きにくい▽自動車のブレーキが効かなくなる▽水につかるとくたがかる▽暗闇が怖いなど、暗くならないよう、避難時の注意事項を説明し、知識を身に付け、状況に応じて行動する大



①配布されたハザードマップで自宅や学校の被災想定を確認する生徒ら ②東播磨員局加古川土木事務所の伊藤所長が土木の役割や災害対策について解説 ③加古川市発行の防災マップ(ハザードマップ) ④いずれも県立東播工業高校

災害時に何ができるか 現場を歩いて考えた

兵庫県立東播工業高校 土木科2年生36人の2日間

1日目

現場を訪ねて

バス3台に分乗して現場見学へ。最初に訪ねたのは7月の台風11号で被害を受けた草谷川(加古川市八幡町)。住宅近くまで崩れたコンクリート護岸が被害の大きさを物語。この日は、1時間33分の雨量を記録。土木事務所河川砂防課の大根裕士さんは「被災直後は護岸崩壊がどこまで拡大するか、住民は心配していたので、被害が拡大しないよう、大根石を入れて、大型の石を設置した。住民に安心してもらおうために復旧方法やスケジュールを説明すること、土木の役割」と語った。

崩れたままの護岸に息をのむ

最後に「総合治水」の取り組みを行っている草谷川(加古川市西神町)へ。草谷川の加古川運動公園陸上競技場や体育館の駐車場は大雨のときに雨水を一時的にためる機能が、水深約40センチ、約1万立方メートルの雨水をためられるという。また隣接するため池も大雨の前には水位を下げてい

2日目

グループ討議

「気づき」をまとめ「対策」に

2日目はグループ討議からスタートした。テーマは「初日の授業をふまえて、地域を洪水から守る」と「大雨が降る前の事前準備」「災害発生時の情報収集」「災害発生時の避難」の各段階について、6班に分かれ班内で意見を述べた。「自分の考えを率直に積極的に発言する」「相手の意見を批判しない」などのルールを決め、「課題と対策」を思い思いに付せん書き込んでいく。付せんを模造紙に張り付けながら、類似する意見をまとめ、議論をまとめた。



2日目

全日程を終えて

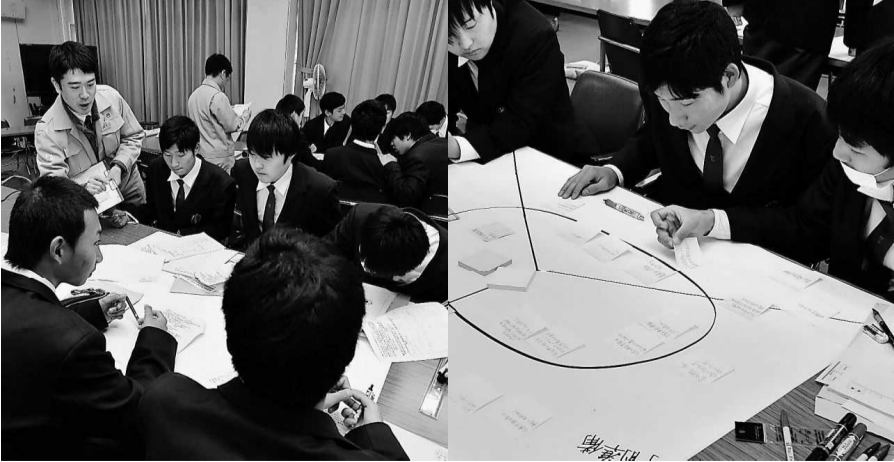


【上段】①資料映像で巨大地震の破壊力を知る ②出された意見を集約、整理して模造紙に書き出す 【下段】③討議の結果発表。災害時どう動くかを生徒全員で確認 ④2人1組で2日間の体験を踏まえ「将来自分は何をしたいか」を語り合う=いずれも県立東播工業高校



「進路に目標」「活発な議論に驚き」

生徒の塚崎航平君は2日間のインターシニップを通じて印象に残ったことを「初日の草谷川のコンクリート護岸が崩れている状態を目の当たりにし、洪水の威力を思い知らされた」と話し「今まで進路はぼんやりとしていたが、2日間の体験を通じて災害復旧に関わる土木の仕事に興味を覚えた。説明やグループ討議の推進役を務めた土木事務所職員の高橋君は「法華山谷川の現場で活躍する重機を、生徒たちが非常に興味深々に見ていたのが印象的だった。説明する土木工事業者の担当者も、自分たちの仕事を若い人に紹介できることを喜んでくれた」と喜んだ。同職員は「振返りながら、同職員の飯倉君は「災害は身近な存在で、復旧途中の現場だけでなく守った現場も見て、土木の仕事の重要性を感じてほしい」と期待を寄せている。



①グループ討議。6班に分かれ、意見を出し合う ②思いのまま付せん書きをしていく=いずれも県立東播工業高校